

V. 特記事項

1. 多彩な地域連携活動による学部横断的・重層的なまちづくり・健康づくり・人づくり

1) 松本大学の基本理念である「地域貢献」を具現化する三つの学部

本自己点検評価書冒頭の「I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等」で述べているように、本学は、「地域貢献」を基本理念に掲げ、地域社会を担う人材の育成・輩出を教育・研究の主軸に据えて種々の取組や活動を精力的に展開してきている。総合経営学部のまちづくり、人間健康学部の健康づくり、教育学部の人づくりという、各学部が目指す人材育成・輩出の方向性を象徴するスローガンは、設置する3学部における学びと地域貢献の内実を端的に表すものである。

2) 地域の要望と学生の自主的な活動を結びつけ統括する二つの組織

また、「アウトキャンパス・スタディ」という帰納的教育手法が本学の教育手法の大きな特徴の一つとなっていることについても、また、冒頭で述べたとおりである。それに加えて、各教員が直接アウトキャンパス・スタディに関わるだけでなく、授業外の学生の自主的な活動を支え、地域の要望に応え統括する場・組織として、「地域づくり考房『ゆめ』」、「地域健康支援ステーション」の二つがある。これらは、地域の要望や課題と学生の自主的な活動を結びつけ様々な取組や活動を展開することを通じて、本学の基本理念と、3学部の教育目的の具現化を担う組織である。

3) 重層的に取り組みされているまちづくり・健康づくり・人づくり

本学では、上記のように、三つの学部での学びと二つの組織での活動を軸に多彩な地域連携・貢献活動を展開しており、その内容は、まちづくり・健康づくり・人づくりの三つの分野に大別される。取組は多数実施されており、その数はまさに「枚挙に暇がない」と形容してもよい状況にある。

ただし、それぞれの活動が三つの分野・領域に整然と分かれているのではなく、まちづくりが人づくりに、健康づくりがまちづくりに、人づくりがまちづくりにもなっているといった具合に、それぞれが複合的かつ重層的な構造をなして機能している。それは、上に述べた三つの学部と二つの組織の関係についても同様である。学生は、学部の中に閉じこめるのではなく、学部の垣根を超えて活動し他学部の学生との交流を深めてもいる。その意味では、三つの学部と組織が、いわゆる縦割りではなく主に関わる学部があり、主たる組織はあるものの、本学全体としてまちづくり・健康づくり・人づくりに携わっていると捉えるのが妥当であろう。

4) 地域貢献から地方創生へ

そうした多様な活動や取組は、新聞・TV等のマスコミにもしばしば取りあげられ、高校教員や高校生、そしてその保護者、企業・行政を含む広く地域の方々にも浸透しており、学生募集や学生の就職活動にも好影響を与え、大学経営に十分に活かされているのである。

「地域健康支援ステーション」が、専門的な学びを深めてきた学生を中心に地域に出て地域社会に貢献しているという傾向にあるのに対し、「地域づくり考房『ゆめ』」の場合は、全学組織であり多様な学修を行っている学生が共同して一つの事業に向かっているという優れた側面を持っている。そうした特長を活かしつつ、今後も、三つの学部と二つの組織が、それぞれの独自性を尊重しつつ、関係を横断的かつ重層的に強化して地域貢献の実をあげ、地方創生のレベルまで引きあげるべく積極的に取り組んでいく。